

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K21501

研究課題名(和文)北斎版本オンラインカタログ・レゾネ作成と公開

研究課題名(英文)Creating Online Database of the Illustrated Books of Katsushika Hokusai (1760-1849)

研究代表者

松葉 涼子(Matsuba, Ryoko)

立命館大学・衣笠総合研究機構・プロジェクト研究員

研究者番号：9055591

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：国内外コレクションの北斎版本のデジタル化をすすめ、立命館大学アトリサーチセンターとの共同で北斎版本のカタログ・レゾネとしてオンライン公開を実施した。なお、本研究は大英博物館・ロンドン大学SOASの「北斎の晩年 思想・技術・社会」と共同研究を実施し、2017年に開催された大英博物館(ロンドン)およびあべのハルカス美術館(大阪)における北斎展に際して、カタログ執筆などの研究成果の公開および研究材料・情報の共有化をすすめている。オンラインカタログは北斎晩年プロジェクトのウェブサイトより公開されている。また2019年の大英博物館のマンガ展に協力し展覧会を通して研究成果の公開をすすめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、ここ数年で急速に進められてきたデジタルアーカイブの動向にあわせて従来図書形態では十分に対応してこれなかった目録の画像情報を、大量の画像が比較できる画像データベースの機能を利用したカタログ・レゾネを作成したことにある。また、大英博物館での展覧会と並行してすすめることによって、国際的な機関や研究者からの協力を得ることができた。北斎の全作品の中でも特に絵手本は肉筆、版画そして工芸のデザインなど多岐にわたって纏められてきた北斎のアイデアの宝庫であり、また当時の出版文化、流通と密接にかかわっている。本研究の成果が他分野と重なりあうことでさらに発展していくことが期待される。

研究成果の概要(英文)：This project, in collaboration with the Art Research Center, Ritsumeikan University, continued the digitisation of illustrated books by Katsushika Hokusai in Japanese collections inside and outside of Japan. As part of this, we have made available online the catalogue raisonne of Hokusai illustrated books. This project also engaged in collaborative research as part of the British Museum and SOAS joint project 'Late Hokusai: Thought, Technique, Society', which involved establishment of research networks for the sharing of primary and secondary sources with other international scholars. Through this collaboration, the project contributed to the Hokusai exhibition, as well as the exhibition catalogue, in both London and Osaka (2017). The online database of the illustrated books of Katsushika Hokusai has been published on the Late Hokusai project webpage. In addition, the project supported British Museum's Manga Exhibition (2019), which enabled the wide dissemination of project outcomes.

研究分野：近世文化史

キーワード：葛飾北斎 大英博物館 版本 江戸 出版文化 絵本 北斎漫画

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の背景

近年、古典籍デジタル画像の Web 公開が飛躍的にすすみ原本がインターネット上で閲覧できるようになってきている。早稲田大学図書館が「古典籍総合データベース」を公開し、約 30 万冊に及ぶ古典籍の全文画像を公開したことを筆頭に、国立国会図書館のデジタルコレクションでは明治以前の古典籍、漢籍を中心に約 7 万点を公開している。また、国内の動向に比例するように、海外でもアメリカ・ボストン美術館、イギリス・大英博物館が所蔵品のデジタル化を勢力的にすすめている。その動向の中、研究代表者は学部 1 年次から現在まで立命館大学アート・リサーチセンターのプロジェクトメンバーとして、絵画資料を中心とした演劇資料のデータベース化、及び館蔵の浮世絵、書籍閲覧システム(注 1)の構築を進めてきた。特に 2007 年から 2009 年まで大英博物館所蔵絵画資料 10,000 点(画像数 19,356 枚)のデジタル化を完了し、2010~2014 年にかけて館蔵絵入版本資料 1,838 点(画像数 157,541 枚)のデジタル化公開のプロジェクトを中心的にすすめた。また大英博物館の絵入版本コレクションとも関連のある米国スミソニアン協会フィリアーアンドサッカーギャラリーの所蔵絵入版本 995 点すべてのデジタル化と目録化を完成させている。その他にも立命館大学アート・リサーチセンターのプロジェクトによって米国メトロポリタン美術館、プラハ・ナブルステク博物館、プラハ国立美術館、イタリア・ヴェネチア東洋美術館、サレジオ大学マレガ文庫、英国・個人(Ebi)コレクションの全作品全ページのデジタル化が完了している。また、現在進行中の機関ではドイツ・ハンブルグ工芸博物館、ベルリン東洋美術館、ドレスデン州立博物館、英国・ケンブリッジ大学図書館、オランダ・ライデン民族博物館にて歴史的古典籍のデジタル化がすすめられており、共同プロジェクトとして日本古典籍の膨大な画像資料がオンラインで研究利用できる状態にあり、研究代表者はプロジェクトを通してその中心的な役割を担ってきた。以上のように各機関で所蔵資料デジタル化への関心が活発になるなか、現在勤務している大英博物館では、2017 年に開催される国際展覧会「Hokusai: Beyond the Great Wave」の企画にあわせて、展覧会の企画者でもある Roger Keys 氏、故 Peter Morse 氏が 1980 年代に作成した北斎一枚摺版画作品のカタログ・レゾネ(全 90 冊、北斎作品 3000 点、写真資料 5000 点)を全デジタル化された博物館資料を参考資料としてオンライン上で公開することを試みている。立命館大学がこれまですすめてきた日本美術資料のデジタル画像は大英博物館だけでなく他機関の関連資料を大量に含んでおり、Keys 氏らが作成した紙媒体のカタログをデジタル化していく作業にあわせて、随時漏れた資料を追加していくことができる。以上の企画は、立命館と大英の共同の国際的研究プロジェクトですすめていくことが予定されており、研究代表者はその中心メンバーとしてプロジェクトに関わっていくことが決定している。しかしながら、北斎の作品ははもちろん版画だけでなく、肉筆、スケッチ、版本は特に北斎の画業を考える上で重要な作品群である。その中でも版本資料は北斎の習作期から晩年に至るまで時代によって傾向を変えながらも勢力的に出版されてきた資料であり、また、それらの重要な北斎の版本コレクションが今現在各機関で行われているデジタル化作業によってオンラインで閲覧できるようになってきている。特に欧米の北斎版本コレクションは、質、量ともに日本のコレクションを凌駕しており、上記のデジタルアーカイブプロジェクトによって世界中で画像を共有できるようになってきたことは大きな意味がある。以上から、デジタル環境下で急速にアーカイブ化された画像を利用してオンラインで公開する版本の総合目録を作成し、所蔵機関別に画像資料を整理し一枚一枚の画像を比較することによって、それぞれの版の摺り段階を明確に表示することができる。特に北斎の版本は摺りの段階によって北斎の指示で版が変わっていたり、版元が異なるなど出版行程を考えることは必須でありながら、国内外のコレクションを比較するのが困難であったため研究が進んでこなかった。デジタルアーカイブによって蓄積された画像を活用する意味でもオンラインでのカタログ公開は重要なプロジェクトになるのではないかと着想するに至った。

(2) どこまでを明らかにするのか

本研究では、最終的に全版本作品の目録化を目指すものであるが、特に大英博物館での展覧会が北斎の晩年期(1819-1849年)を対象とするのにあわせて、まずはじめに北斎晩年期に最も集中的に制作された絵手本を中心に版本作品のデジタル目録を作成することからはじめる。北斎の晩年期に大量に出版された絵手本類は、北斎の筆法を広く伝えようとする目的の下に制作されたものであり、絵本の刊記をみると多くの弟子が出版に関与していることがわかるが、「校合」と刊記に付させる弟子の役割はなんだったのか、なぜ多くの改題本、後摺本が存在しているのかいまだその制作過程が明らかではない。またさらに、北斎の絵手本は肉筆や版画だけでなく工芸のデザインにまで言及しているところをみると、北斎が画家としてだけでなくいわば流行のデザイナーの役割を担っていたことも明らかである。そのように、各所蔵機関の絵手本をカタログ化しながら出版行程を整理し、版本という媒体を通して出版界で北斎がどのようなネットワークを持っていたのか、北斎が画家として当時の社会状況とどのようにリンクしていたのかを版本流通の観点から読み解く。

注 1

[http://www.britishmuseum.org/research/search\\_the\\_collection\\_database/advanced\\_search](http://www.britishmuseum.org/research/search_the_collection_database/advanced_search).

## 2. 研究の目的

本研究では国内外の所蔵機関で行われている古典籍のデジタル化をすすめながら、所蔵機関別の画像が表示できる北斎版本のカタログ・レゾネ（総目録）をオンライン上で作成する。北斎版本の膨大な量の画像一枚一枚をデジタル画像を並べて比較、研究することによって、それぞれの作品の異版や後摺りなどの出版行程を解明することが可能となる。それによって、北斎が深く関わった出版文化のネットワークを版本という媒体を通して明らかにし、またその内容から北斎が画家として当時の社会状況とどのようにリンクしていたのか、版本流通の観点から北斎の画業を総括的に読み解いていくことを目的としている。

## 3. 研究の方法

研究は、以下三点の計画に拠ってすすめた。

計画 現在すでにデジタル化が終了して画像が閲覧できる機関の画像情報から北斎版本に関するデータを抽出し、カタログ化する。

イギリス・大英博物館（約 250 点）、イギリス・スコットランド国立博物館（6 点）、英国 Ebi コレクション（60 点）、米国スミソニアン協会フィリアーアンドサックラーギャラリー（約 50 点）、米国メトロポリタン美術館（42 点）、イタリアキオッソーネ東洋美術館（34 点）、イタリア・ヴェネチア東洋美術館（12 点）、チェコ・プラハ国立美術館（6 点）、イタリア・サレジオ大学マレガ文庫（6 点）、国立国会図書館（約 50 点）、早稲田大学図書館（56 点）、金沢美術工芸大学付属図書館（5 点）から、特に大英博物館 Jack Hillier 氏コレクションを中心として、画像情報を抽出、整理しながらタイトル別の版本カタログをバイリンガル表記でデジタルデータを作成した。

計画 現在デジタル化進行中である機関及びデジタル化ができていない機関における北斎版本作品をデジタル化、もしくは書誌調査し、計画 で作成しているカタログに統合させていく。

国外主要機関の北斎版本調査として、立命館大学アート・リサーチセンターのプロジェクトでデジタル化が今現在進められている機関（ドイツ・ハンブルグ工芸博物館、ベルリン東洋美術館、ドレスデン州立博物館、英国・ケンブリッジ大学図書館、オランダ・ライデン民族博物館、カリフォルニア大学バークレー校アジア図書館）の北斎版本作品について、書誌情報を整理した。まだデジタル化がすすめられていない国外主要機関のうち、ヨーロッパを中心に（ベルギー・王立美術歴史博物館、ベルギー・王立図書館、フランス・国立図書館、フランス・ギメ美術館、オランダ・アムステルダム博物館）の北斎版本の調査を行う。デジタル撮影の可能性があれば、機関の承諾を得て、デジタル撮影をすすめた。

計画 大英博物館 Website からの公開

大英博物館 website から「北斎版本カタログ・レゾネ」を公開する。作業の進行状況にあわせて、特に絵手本関連の情報を充実させることを目指した。本研究の成果として構築された北斎版本のオンラインカタログ・レゾネは大英博物館 website から公開されている

（<https://www.latehokusai.org/illustrated-book>）。

本成果を利用して、今後さらに研究成果を広く発信するためのシステム構想は大英博物館のシステム担当者（ResearchSpace）と協力してすすめている。また、システム構築に加えて、データ公開のためのサーバー管理、また他機関の画像使用权の交渉のためのガイドラインについては、立命館、大英側と協議した。

## 4. 研究成果

本課題は、イギリスの AHRC の研究助成による大英博物館およびロンドン大学 SOAS がすすめている「北斎の晩年研究プロジェクト」との共同で 2016-2018 年度まで共同研究をすすめた。2016 年度は、大英博物館所蔵の北斎一枚摺カタログレゾネをすべてデジタル化し、また在英コレクションを中心に国内外の北斎版本コレクションのデジタル化を実施した。さらに、2017 年 5 月開催の大英博物館北斎展、10 月のあべのハルカス美術館北斎展の準備にかかわり、「北斎の晩年研究プロジェクト」をサポートしながら、北斎版本の序文の講読と英訳および北斎書簡の講読、英訳を学習院大学、立命館大学との共同でのオンライン研究会を実施し、10 点の序文の現代語訳と英訳、2 点の書簡の現代語訳と英訳とを完成させている。上記の成果は大英博物館

のプロジェクトチーム ResarchSpace のウェブサイトから公開される予定である。2017 年度は、5 月に開催された大英博物館の北斎展にあわせて、「北斎の晩年研究プロジェクト」のウェブサイトから北斎版本のカタログレゾネ（305 点、当時）を公開した。同時に前年度に引き続き、北斎版本のデジタル化、北斎版本の講読および英訳作業を続けた。2018 年度は、「北斎の晩年研究プロジェクト」と共同で、アメリカ（フィリアー・アンド・サックラー美術館、メトロポリタン美術館）、日本（東京国立博物館、学習院大学）でのワークショップに参加し、2016 年度からの研究成果について報告、また参加者からのフィードバックを得た。

最終年度となる 2019 年は成果報告として、大英博物館マンガ展への協力とカタログ執筆、および大英博物館から 2021 年度に出版される北斎の晩年のプロジェクト論文集への論文執筆にむけての情報収集と中間成果報告を中心に研究をすすめた。以上の研究成果から、特に 19 世紀後半から 20 世紀はじめにかけての北斎の複製版画の流通と版本の再出版について注目するようになった。特に 19 世紀後半から出版される北斎の複製版画と江戸から明治にかけての近世的な出版形態の解体との関係性に注目し、米国スミソニアン機構フィリアー・アンド・サックラー美術館、およびボストン美術館での調査、研究を実施した。以上の研究成果について、単著「Cutting Wood」（予定）にまとめ、研究期間終了後に出版する予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 エリス・ティニオス著、松葉涼子訳	4. 巻 20
2. 論文標題 見落とされた北斎版本：明治13（1880）年刊『画本唐詩選五言絶句』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アート・リサーチ	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://ritsumeij.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=13026&amp;file_id=22&amp;file_no=1">https://ritsumeij.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=13026&amp;file_id=22&amp;file_no=1</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 松葉涼子（Vivian Li 編集）	4. 巻 なし
2. 論文標題 Fashion Influencers in the Edo Period: The Yoshiwara and the Kabuki Theater	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Exhibition Catalogue The Kimono in Print: 300 Years of Japanese Design	6. 最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松葉涼子	4. 巻 8
2. 論文標題 縮模版 富嶽三十六景をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 太田記念美術館紀要 浮世絵研究	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ryoko Matsuba	4. 巻 99
2. 論文標題 Intertwined Characters Parody images in Edo visual culture	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Andon	6. 最初と最後の頁 5-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 松葉涼子
2. 発表標題 Ehon to Manga
3. 学会等名 Manga Symposium, What is Manga? (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松葉涼子
2. 発表標題 北斎一枚摺カタログレゾネについて
3. 学会等名 大英博物館「北斎の晩年」プロジェクト 研究会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松葉涼子
2. 発表標題 北斎一枚摺の諸問題
3. 学会等名 大英博物館「北斎の晩年」プロジェクト 研究会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松葉涼子
2. 発表標題 ARC古典籍データベースを利用した近世版本における『版 (edition)』の変遷に関する研究
3. 学会等名 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」 / 研究拠点形成支援プログラム 研究プロジェクト 2018年度 成果発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryoko Matsuba
2. 発表標題 An Example of an International Collaboration Project: The British Museum and Art Research Center, Ritsumeikan University
3. 学会等名 International Conference Japanese Cultural Studies outside of Japan; its current status and future perspectives (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryoko Matsuba
2. 発表標題 The Sound of Edo
3. 学会等名 At the Roots of Visual Japan (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松葉涼子
2. 発表標題 北斎一枚摺カタログレゾネのオンライン化
3. 学会等名 AHRC研究プロジェクト Late Hokusai: Thought, Technique, Society北斎の晩年：思想、技術、社会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ryoko Matsuba
2. 発表標題 Hokusai 's Signature
3. 学会等名 Creating a space online for Hokusai research, Percival David Study Room, Department of Asia, British Museum (国際学会)
4. 発表年 2015年

## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 Nicole Coolidge Rousmaniere、Matsuba Ryoko編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Thames and Hudson Ltd	5. 総ページ数 352
3. 書名 Manga (British Museum)	

1. 著者名 Roger Keyes (Author), Angus Lockyer (Author), Alfred Haft (Author), Ryoko Matsuba (Author), Timothy Clark (Editor)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Thames and Hudson Ltd	5. 総ページ数 352
3. 書名 Hokusai: beyond the Great Wave	

1. 著者名 Ryoko Matsuba, Joshua. S. Mostow, Asato Ikeda	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Hotei Publishing	5. 総ページ数 215 (44-51)
3. 書名 A Third Gender : Beautiful Youths in Japanese Edo-Period Prints and Paintings (1600-1868)	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

<p>LATE HOKUSAI: THOUGHT, TECHNIQUE, SOCIETY  <a href="https://www.latehokusai.org/">https://www.latehokusai.org/</a>          北斎一枚摺カタログレゾネデータベース  <a href="https://www.latehokusai.org/catalogue-link-and-disclaimer">https://www.latehokusai.org/catalogue-link-and-disclaimer</a>          北斎版本データベース  <a href="https://www.latehokusai.org/illustrated-book">https://www.latehokusai.org/illustrated-book</a>          ARC古典籍ポータルデータベース  <a href="http://www.dh-jac.net/db1/books/search_portal.php">http://www.dh-jac.net/db1/books/search_portal.php</a>          ARC浮世絵ポータルデータベース  <a href="http://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_portal.php">http://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_portal.php</a>          The collection online, The British Museum  <a href="http://www.britishmuseum.org/research/collection_online/search.aspx">http://www.britishmuseum.org/research/collection_online/search.aspx</a>          The World of the Japanese Illustrated Book  <a href="http://pulverer.si.edu/">http://pulverer.si.edu/</a></p>
--



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----